



## 今年の夏は浴衣で粋に！



### ◇日本の夏を彩る浴衣…関西は色鮮やかに、関東は藍地が主流。

浴衣は、平安時代の貴族があ風呂上がりに汗を拭き取った、湯帷子（ゆかたびら）が由来。庶民に拡がったのは江戸の元禄時代。メダカの目や小菊の紋など、彩り鮮やかに染めた浴衣が夏祭りや花見のあしゃれ着に大流行。役者がしゃれた柄を競い合い、まさに浴衣文化が華開きます。これがいわゆる「東京染め」。現代でも東京の浴衣の主流は、「藍と白のキリリとした染め」。

これに対抗して、大阪立壳堀の染め問屋が開発したのが「注染」と呼ばれる「大阪染め」。今でも、浴衣染めのほとんどがこの染め方で染められています。美しい水で様々な色に鮮やかに染められる関西の浴衣は、赤や黄色など多色を使い、デザインも実に自由。

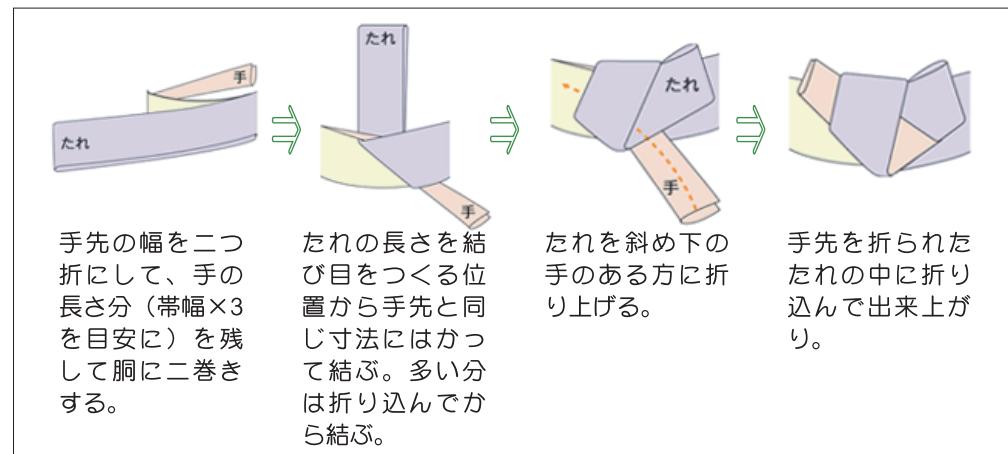
### ◇浴衣を粋に切るコツは。

元々あ風呂上がりに着る浴衣。薄い浴衣下着の上に気軽に羽織ります。電車で遠出の時には、和装ブラジャーをしても良いですね。洋服用のブラジャーは着崩れるので御法度。襟をぐんと後ろに抜いて粋に着こなして下さい。着物のあしゃれは襟元。髪はアップにして襟元を見せます。といっても、晴れ着を着る時のようなアップは不釣り合いで。ポニーテールにしたり、くるくるまいて大きなピンでとめる程度の方が似合います。お化粧は、派手な色は避けてナチュラル系に。あ風呂上がりのようすっきりした感じの方が粋です。

髪もお化粧も、浴衣を着る前に整えましょうね。

### ◇大人の粋に仕上がる「貝の口」

浴衣帯は半幅帯。蝶々結びが多い中、貝の口は大人の粋な結び方。細い帯締めを締めれば紗の着物にも合わせられる、とっても便利な帯結びです。



### ◇華やかな風情になる「花の矢結び」

蝶々の変形。ビビッドな帯にはぴったりの結び方です。これも、紗や小紋の着物に細い帯締めをすれば、ちょっとしたパーティーにも行けそうですね。

